巻頭随筆

坂口安吾

青空文庫

山本元帥の戦死とアッツ島の玉砕と悲報つづいてあり、国の興亡を担ふ者あに軍人のみならんや、一億総力をあげて国難に赴くときになつた。

飛行機が足りなければ、どんな犠牲を忍んでも飛行機をつくらねばならぬ。船が足りなければ船を、戦車が足りなければ戦車を、文句はぬきだ。国亡びれば我ら又亡びる時、すべてを戦ひにささげつくすがよい。学校はそのまま工場としてもよく、学生はそのまま職工となるも不可あらんや。僕もそのときはいさぎよく筆をすてハンマーを握るつもりである。

戦時体制の文学と云ふ人もあるが、人各説あり、僕の考へは又達つて、僕自身だけの考へで云へば、僕は戦時体制の文学といふものを考へられぬ。宣伝とか戦意振興といふことは小説家の筆をまつまでもなく、小説家必ずしも適任ではない。百万の空文ありとも何の役にか立たんや。ラヂオ・ニュースの始まる前の軍艦マーチや敵は幾万がはるかに強力なる国民総力振興の具であり、更に又、軍艦マーチ幾度鳴るとも実際の戦果なければ如何にせん。実際の戦果ほど偉大なる宣伝力はなく、又、これのみが決戦の鍵だ。飛行機があれば戦争に勝つ。それならば、ただガムシャラに飛行機をつくれ。全てを犠牲に飛行機をつくれ。さうして実際の戦果をあげる。万億の文章も何の力あらんや。ただ、戦果、それのみが勝つ道、全部である。

飛行機があれば勝つ、さうきまつたら、盲滅法、みんなで飛行機をつくらうぢやないか。そんなとき、僕は筆を執るよりもハンマーをふる方がいいと思ふ。その代り、僕が筆を握つてゐ

る限り、僕は悠々閑々たる余裕の文学を書いてゐたい。文学の戦時体制は無力、矛盾しやしないか。

青空文庫情報

底本：「坂口安吾全集　03」筑摩書房
　　1999（平成11）年3月20日初版第1刷発行
底本の親本：「現代文学　第六巻第七号」大観堂
　　1943（昭和18）年6月28日発行
初出：「現代文学　第六巻第七号」大観堂
　　1943（昭和18）年6月28日発行
入力：tatsuki
校正：noriko saito
2008年9月16日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

巻頭随筆

坂口安吾

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/